

## 2025年 保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日： 2025年12月15日

事業所名：運動遊びと療育支援 こどもプラス三郷中央教室

対象人数（保護者）23人 回答者数 18人 回収 78.3%

	チェック項目	とても満足	概ね満足	やや不満	不満	わからぬ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
満足度	1 お子様は安心感をもって通所していますか？	14	4					笑顔、明るい声掛けを心掛けております。
	2 お子様は楽しんで通所していますか？	15	3				・いつも楽しく通っています ・たまたま活動に参加できなかった時に、こどもプラスが楽しめたから早く来週になってほしいと言ってたことがあります。 いつもありがとうございます。	楽しく取り組むを1番に明るい雰囲気作り目指しています。
環境・体制整備	3 怪我がないように安全に配慮した空間と活動の提供がされていますか？	11	7					定期チェックはもちろん、常に安全に配慮してまいります。
	4 生活空間は、清潔で、整理整頓がされており、活動に適した空間になっていると思いますか？	13	5					感染対策にも努めてまいります。
	5 お子様にとって活動のスペースは十分だと思いますか。 尚、こどもひとり当たりの活動スペースは、2.47m以上と設備基準には定められています。	10	7	1				運動メニューなどの工夫を凝らしながら、十分に体が動かせる環境作りをしていきます。
	6 職員の配置数は適切で十分だと思いますか。尚、定員10名以下の施設では、保育士または児童指導員の人員配置は2名以上と人員配置基準に定められています。	11	7					県の定める人員配置基準を遵守して運営をしております。より質の高い支援を目指して職員の配置を増やすとともに個人のスキルアップを図ってまいります。
	7 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。 (※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのかがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。)	13	5					言葉だけではなく視覚でもわかりやすい環境作りをしていきます。
	8 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	4				・相談をしたうえで適切な対応をしてくださっている	研修などで専門性のさらなる向上を目指していきます。
	9 教室がホームページで公表している支援プログラム（※2）は、実際に提供されている支援内容と合っていると思いますか。 (※2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るために、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。)	11	7					運動メニューを中心にいろいろなイベントも企画しています。
適切な支援の提供	10 こどものことを十分理解し、こどもや保護者のニーズや課題に沿ってが客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。 (※3 「児童発達支援計画（個別支援計画）」は、児童発達支援を利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供するまでの留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられています。)	13	5					毎月支援検討会議を行い、スタッフ間で十分に話し合いを行い作成しております。
	11 児童発達支援計画に沿った内容で、支援が行われていると思いますか。	13	5					毎回ミーティングを行い運動メニューを考えております。
	12 社会的な活動や外部でのイベントなど、多様な活動が提供されていますか？※ご希望の機会・イベントなどがありましたらご意見欄にお願いします。	11	7				・健常者の子達との関わりで理解を深める活動やイベントがあると良さそうです	年1回、三郷市内の他の事業所と合同イベントを行っております。
	13 教室を利用する際に、サービスの内容と提供時間の範囲などが記載された運営規程、支援プログラム、利用者負担(費用)等について十分な説明がありましたか。	13	5					契約時にご説明をしておりますが、不明な点がございましたら、随時ご説明させていただきます。
保護者への説明	14 「児童発達支援計画」を示しながら、支援目標や内容の説明がありましたか。	12	6					モニタリング時に児童発達支援管理責任者からご説明をさせていただいております。
	15 教室では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等※4)や家族等も参加できる研修会や情報の提供が行われていますか。※ご希望の機会・イベントなどがありましたらご意見欄にお願いします。 (※4 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。)	11	4			3		保護者会イベントを開き、先輩保護者をお呼びして、情報の提供を行っております。ぜひご参加ください。
	16 日頃からお子様の状況について情報交換がされ、健康や発達の状況について共通理解ができると思いますか。	15	3					送迎時にお話をさせていただいておりますが、ご心配なことやより詳しい状況を知りたい際には、面談やお電話で承りますのでお気軽にご連絡ください。
	17 定期的に、面談が行われたり、助言を受ける機会はありますか。	13	5					専門性を高め、面談の質の向上に努めてまいります。
	18 教室の職員から共感的に支援をされていると感じますか。	14	4				・私の不安などを丁寧に聞いてくださる	保護者様との情報交換を密にし、支援の向上に努めてまいります。
	19 保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされていますか。※ご希望の機会・イベントなどがありましたらご意見欄にお願いします。	7	10			1		親子参加型のイベントも企画しておりますので、ぜひご参加ください。
	20 相談や苦情解決の体制があり、相談や申入れがあった際に迅速かつ適切に対応がされていると思いますか。	13	4			1		ご心配なことや気になることがございましたらお気軽にお問い合わせください。
	21 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のため、十分な配慮がなされていると思いますか。	13	5					お子様とは信頼関係が築けるよう送迎時などでもたくさんお話をしております。
	22 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	12	6					HUGの活用、ブログなどで、療育の内容や、イベントの発信を行っております。
	23 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11	7					鍵のかかる棚を使用して、個人情報の管理をしております。
非常時等の対応	24 教室では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	5					各種マニュアルを保護者様に閲覧いただけるようご用意しております。訓練につきましては、避難訓練や消防訓練を行っております。
	25 教室では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出など必要な訓練が行われていますか。	14	4					年間スケジュールを作成し、定期的に訓練を行っております。
	26 教室より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	4					避難訓練などはHUGやこどぶら通信でお伝えしております。
	27 事故や怪我などが発生した際に、教室から速やかな連絡や状況等の詳細について説明が十分にされていますか。	13	3	1		1		療育中のけがなどは送迎の際にお伝えさせていただいております。直接お会い出来ない場合は電話やライン等でお伝えしております。

公表

## 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名 運動遊びと療育支援 こどもプラス三郷中央教室

公表日 2025年12月15日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員10名に対し、指導訓練室が40㎡以上確保できているか	5		コーナーガードなどを使用し危険がないようにしている。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		今後より良い支援を実現するためにスキルのある職員を増やしていく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		情報伝達は口頭だけでなく、ノートなどの活用をして、伝達漏れがないようにしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		午前、午後活動後にそれぞれ教具の消毒と清掃を行っている。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		教室がせまく個別の部屋の使用は難しいが、他のお子様の目から離れられる場所を設定している。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		ミーティングをこまめに行っている。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		話合いの時間を作つてこまめに話合っている。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		月1回のミーティングではもちろん朝昼のミーティング時に意見を共有している。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	第三者による評価は実施していないので今後検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		社内研修以外にも市のワークショップ等にも参加している。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		作成されている。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		支援検討会議を行っている。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		子どもの様子をよく観察し、支援会議を行つたうえで、モニタリングの結果を共有している。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿つた支援が行われているか。	5		ミーティングの話合いの時間以外にも利用の前に話合いを行っている。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	4	お子様について一人一人の考え方を共有してアセスメントを行っている。

適切な支援の提供	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		職員会議での意見を参考に熟慮している。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	2か月に1回取り組む種目を決めている。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		毎日のリーダーを代え、いろいろな支援を行っている。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	小集団で行っていることが多い。
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		できる限りの時間を使ってしっかり話し合っている。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		その日に振り返るのはもちろん、後日でも話合いを行っている。
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		HUGを活用している。
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		適切に見直ししている。
関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	必要に応じてケース会議を行っている。
	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	必要に応じて行っている。
	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		市の相談などにも促している。
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		こまめに行っている。
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。		5	個人情報、安全面を考慮すると難しい。
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時に行っている。
	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		研修に参加している。
32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明している。不明な点については随時説明をしている。

保護者への説明等	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		聞き取りニーズを極めていきたい。
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		児発管が行っている。
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		必要に応じて電話対応、面談を行っている。
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	茶話会、運動イベントなど、保護者も参加できるイベントを開催している。
	37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		迅速に対応している。
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		ブログの活用。こどぷら通信を発行している。
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		携帯電話にロックをしている。 鍵のかかる書庫を使ってしまっている。
	40	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		保護者の引渡しが他児と時間が重ならないようにしている。
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	お子様の安全を鑑みた際に実践の難しさを感じている。地域との関係性を高め、検討していきたい。
	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		BCP研修を行い、都度必要に応じて改善を行っている。
非常時等の対応	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		年間スケジュールに沿って行っている。
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		確認している。
	45	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		5	食事の提供を行っていない。
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	研修を受け安全面を徹底していきたい。
	47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		不明な点については丁寧に説明していく。
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		記録をとり、大きな事故につながらないよう、話し合いを行っている。
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修を定期的に行っている。
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束はおこなっていない。